

複数武道種目授業

実践の紹介

「武道推進モデル校」事業を活用した 複数種目（弓道・柔道）の実践

京都府宇治市立南宇治中学校

教諭 浅野勇人

令和元年度、本校は京都府教育委員会の支援事業である「武道授業推進実践モデル校」として、柔道に加えて京都府弓道連盟から授業協力者の派遣を受け、弓道の授業に取り組みました。学校教育では、道具や安全面の確保において、不可能だと思っていた弓道の授業が工夫次第で可能であることを学びました。教師だけでなく、全ての生徒が今まで弓道に触れる機会がなかったため、とても新鮮な気持ちで授業に臨むことができました。また、外国にルーツをもつ生徒が多数在籍している本校にとっては、柔道以外の武道を通して、日本の文化を学ぶ貴重な機会となりました。本校の取組をご紹介します。



南宇治中の正門からの様子

1 学校の特徴

本校は、第1学年84名、第2学年73名、第3学年64名の計221名の小規模校です。本校は宇治茶や10円硬貨に描かれている平等院鳳凰堂などで有名な宇治市の南部に位置し、城陽市と隣接しています。本校には外国にルーツをもつ生徒も多く在籍しているため、中国語

京都府弓道連盟。4時間×2講座（1・2年生）
 〈授業の内容〉
 弓道の歴史、礼法等の知識、基本技能の習得

的は狙うのではなく、「心で射る」とアドバイスをされたという。その一節を通して、弓道の奥深さを学んだ。

▼弓具・危険防止について

弓具の名称や使用方法、危険防止に関する注意事項や約束事などを学んだ。

▼射法八節・徒手体操

京都府弓道連盟の方による模範射礼（巻藁射礼）によって、講習が始まった。初めて見る弓と矢に生徒、教師ともに釘付けになった。そして、静寂の中で矢が放たれると、的を射る音が体育館に響き、一同が心揺さぶられた。

▼弓道の歴史について

弓道の歴史を学習することで、弓道の礼法や日本の文化との関わりなどを学び、弓道に向かう姿勢や心得を習得した。

▼弓道とは（阿波研造の話）

4グループに分かれて、実際に弓を引いて、矢を射ることに挑戦した。各場所に複数の講師についてももらい、生徒は一列に整列し、安全指導を徹底して行った。

▼実技

教師、生徒ともに弓道を行うのは初めてということもあり、京都府弓道連盟の講師の方々の協力を得て、弓道の授業の準備、実施を進めてきました。弓道の実技を行うに当たって、学校体育に不可欠な「安全面」に重点を置いて、実施しました。

2 弓道授業の実践

〈授業時数〉

1・2学年で4時間実施（男

女共習）

〈授業形態〉

4時間を2時間ずつの2日間に分け、男女共習の学年体育として実施。

〈授業協力者〉

弓道の歴史の中で、重要な人物である阿波研造とドイツの哲学者オイゲン・ヘリゲルとのエピソードがヘリゲルの著書『弓と禅』に記されている。

表1 弓道授業の流れ

《本時の展開・1日目（2時間）》			《本時の展開・2日目（2時間）》		
過程	主な学習活動	指導形態	過程	主な学習活動	指導形態
導入	集合、整列、挨拶、本時の流れ 模範射礼（巻藁射礼） 歴史DVD鑑賞 弓道とは（阿波研造の話） 弓具について 危険防止について	一斉	導入	集合、整列、礼と挨拶、本時の流れ 矢渡 礼記射義・射法訓の解説 危険防止の再徹底	一斉
展開	射法八節 徒手体操 紐による射法八節 DVD参照 体配と射技 実技 4グループに分かれて的に向かって射る	一斉 グループ	展開	徒手体操 紐による射法八節 実技 4グループに分かれて的に向かって射る	一斉 グループ
まとめ	振り返り 整列、健康確認、次時の確認	一斉	まとめ	振り返り 整列、健康確認	一斉

●第2日目（2時間）

▼礼記射義・射法訓の解

礼記射義・射法訓の文の示す意義などを解説していただき、弓道の心得を学んだ。

▼徒手体操・紐による射法八節

前日同様、紐を使用した射法八節を行った。繰り返し行うことで力の入れ具合、身体の軸の状態、「会」から「離れ」までの溜めができるようになるなど進歩が見られた。

▼実技

紐を使った射法八節などを繰り返し行なった。2日目ということもあり、的の中心近くに力強く矢を射ることができた生徒が増え、その表情はさらに充実したものへと変わり、時間の許す限り実技を行い、楽しみながら上達できた。授業終了時には、少し寂しそうにする生徒もいるほど夢中になっていた。

3

生徒の意識の変容

授業前後の意識や興味・関心等について、生徒にアンケートを実施した。結果は次の通りである。

生徒が増加し、83・6%の生徒が興味があると回答している。

(1) 多様な武道について（グラフ①、②）

・授業前…興味や関心が高くない生徒が約50%を占めていた。
・授業後…興味や関心の高まった

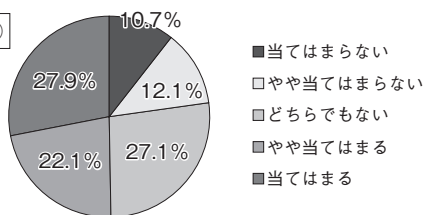
(2) 男女共習について（グラフ③、④）

・授業前…約8割の生徒が「どちらでもよい」と回答している。
・授業後…「別習がよい」との回

(1)武道授業について興味がありますか

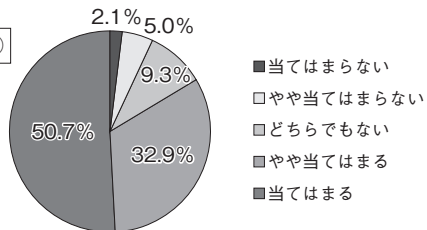
【事前】

グラフ①



【事後】

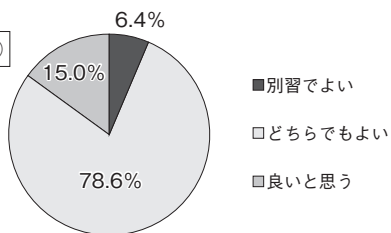
グラフ②



(2)武道授業を男女共習で行うことについて

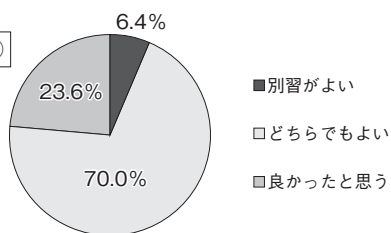
【事前】

グラフ③



【事後】

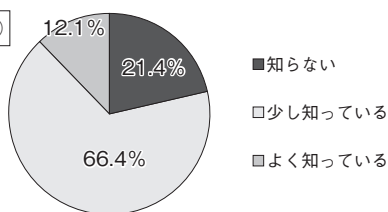
グラフ④



(3)弓道について知っていますか

【事前】

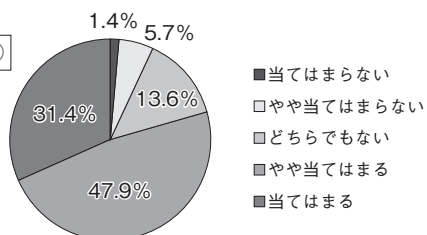
グラフ⑤



弓道についてさらに知りたくなりましたか

【事後】

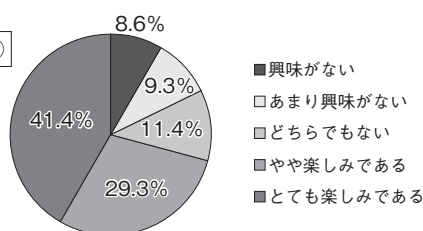
グラフ⑥



(4)弓道の体験授業について

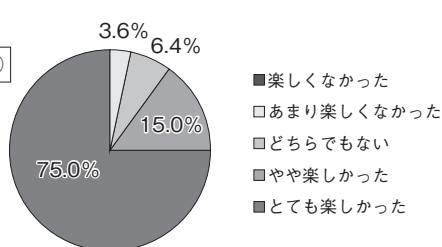
【事前】

グラフ⑦



【事後】

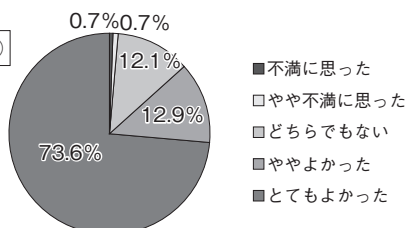
グラフ⑧



(5)講師（授業協力者）について

【事後】

グラフ⑨





授業の様子（実技では、講師の指導のもと4グループに分かれて弓を引いた）

答に変化はなかったが、「共習でよかったと思う」が8・6ポイント増の23・6%となった。

(3) 武道についての知識（グラフ⑤、⑥）

・授業前…弓道について「よく知っている」が約12%と、ほとんどの生徒が弓道をよく知らない状態でのスタートとなった。
・授業後…体験授業を通して、約8割の生徒がさらに弓道について知りたいと回答している。

(4) 体験授業について（グラフ⑦、⑧）

・授業前…約7割の生徒が弓道の体験授業に興味を抱いていた。しかし、残りの約3割の生徒に関してはあまり高い興味を示していなかった。
・授業後…約9割という非常に多くの生徒が体験授業を楽しむことができた。

(5) 専門家（授業協力者）について（グラフ⑨）

・授業後…京都府弓道連盟の授業協力者11名に丁寧な指導してもらい、短時間で上達できた。おかげで約86%の生徒が好印象を抱いて終わることができた。

4 生徒の感想

次に、弓道授業を終えた生徒の感想を紹介したい。

▼弓道の授業を受けて、弓道に対する考え方がすぐ変わりました。最初は普通に簡単に引いて、射ることができると思っていました。初めてやってみると一つに手順があつて、引くだけでも難しく、とても時間がかかることに驚きました。また、弓道をする機会があつたら、今回の授業を意識して頑張ります。

▼射法八節を行った時、手が震えて、筋力のあるスポーツだと感じました。やってみると、集中しないといけないし、弓を引続けられないといけないので、たった1回矢を放っただけでも、すごい疲労感に襲われました。



生徒は達成感を得て、さらなる弓道への興味・関心へと繋がった

た。この授業を通して、弓道を続ければ、集中力も身につくと感じました。的に矢が刺さった時の達成感、爽快感、安心感がありました。ちゃんとのに当たってほっとしたし、とても楽しいスポーツだと感じました。

表2 柔道授業の流れ

《本時の展開（5時間目）》

過 程	主な学習活動	指導形態
導 入	集合、整列、挨拶、黙想、本時の流れ、めあての確認	一斉
	準備運動、ストレッチ、基礎トレーニング、礼法の確認	一斉
展 開	受け身の練習（後ろ受け身・横受け身・前回り受け身）	一斉
	固め技（けさ固め・横四方固め）の説明・練習	ペア
まとめ	振り返り	一斉
	整列、健康確認、次時の確認	

5

柔道授業の実践

また、本校の柔道の授業概要は以下の通りである。第1・2学年では柔道の授業終了後に弓道を実施した。

《年間授業時数》

1～3学年 10時間実施（1年

生のみ男女共習あり）
10時間のうち、前半5時間をチームティーチングの男女共習で実施し、後半5時間を担当教員の男女別習で実施した。5時間目を授

生のみ男女共習あり）

《授業形態》

業協力者と担当教員による実施とした。
《授業協力者について》
・所属団体…京都府柔道連盟
・授業協力者による授業補助
1時間×3講座（1年生）
《授業内容》（5時間目）
・受け身、固め技について
・柔道における安全面の留意点について



前回り受け身の練習



固め技



後ろ受け身の練習



全員で徒手体操

学校現場において、弓道の授業を実施している学校はかなり少数である。その要因として、安全面を確保できる環境、道具の完備、指導者不足などが考えられる。今回、本校が実施するに当たっ

て、本校の体育館で実施できるものなのか、限られた時間や環境の中で、技を習得し、楽しむことができるのかという点が不安であった。しかし、京都府弓道連盟の方々を中心に実施計画・準備・授業での指導・片付けなど、全てにわたってご支援いただき、当初、不安に思っていた安全面に關しても、安心して実施することができた。

また、生徒の武道に対する興味や意欲が向上したことがアンケートからも見受けられた。限られた時間や環境であっても工夫によって十分に取り組み、生徒の意欲向上、技術の向上にも繋がる。この経験を生かし、教師としての授業改善のきっかけにしていきたい。

最後に本校の武道授業の成果と課題を掲載する。複数種目の実践の参考となれば幸いである。

表3 武道授業の成果と課題

	生徒	教員
(1)弓道授業について	【成果】全ての生徒にとって初めての経験であったため、新鮮な感覚で臨めた。また、連盟の方の礼法や手本に生徒たちは圧倒されていた。 【課題】武道において、歴史や礼法は非常に大切なものだが、限られた時間の中では、生徒たちの学ぶ意欲が続くかが心配であった。	【成果】学校教育の中で弓道を実施することは不可能であると考えていたが、工夫次第で可能であることが分かった。 【課題】授業に向けての準備や授業時数の確保が難しかった。
(2)男女共習での授業	【成果】別習とは違い、クラスと同じような雰囲気で実施でき、非常に楽しそうであった。お互いに性別の違い等を理解した中で学ぶことができた。 【課題】男女の体格差や性別の関係上、一緒に組んだり、接したりすることへの抵抗は大きい。種目における練習内容も男子は物足りなさを感じるのではないかと考える。	【成果】男女ともにお互いの良い一面を見ることができ、男女の特性に応じた指導や模範指導ができる。 【課題】異性に教える経験が少なく、体力的・技術的なレベルの見極めが難しい。また、異性である生徒への補助や模範試技が難しい。
(3)授業協力者の活用	【成果】専門家を授業協力者として活用することで、効率よく上達することができ、意欲の向上につながる。 【課題】中学校教師でないため、説明が浸透にくい場面がいくつかあった。また、生徒の状況や課題、雰囲気によっては、授業協力者の活用が逆効果に働くことも懸念される。	【成果】過去に自分たちが経験したことの無い種目(競技)については、とても助かる。特に安全面における指導は多くのことを学べた。 【課題】時間割の調整や事前の打ち合わせ、授業の進度などの準備が難しい。